

經 濟 研 究 所
年 報

第 24 号

成 城 大 学

THE INSTITUTE FOR ECONOMIC STUDIES
OF
SELJO UNIVERSITY
2011

巻 頭 の 辞

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、未曾有の出来事として歴史上に名を留めることになるであろう。地震のみならず、東北・関東の長大な海岸地域を襲った津波の破壊力はすさまじく、さらには原発の事故を引き起こして、周辺地域に塗炭の苦しみを与えている。被災された皆様には、心からお見舞い申し上げたい。

今回の大震災は、マグニチュード9という観測史上最大の大地震によるものであり、その巨大さゆえに「想定外」という言葉が頻繁に使われるほどの出来事であった。しかしながら、地震規模と津波の被害という点では、2004年に同規模のスマトラ島沖地震が発生しており、その被害の甚大さは映像を通じて記憶に残っていた。また、三陸沖や宮城県沖に巨大地震が発生する可能性が高いことは、いつとは言えないまでも予想されていたようであり、過去においても貞観地震として869年に巨大地震が発生し、津波により甚大な被害が生じていた。千年に一度の巨大な地震とはいわないまでも、過去の巨大地震による地震と津波の被害が甚大なものであることは、記録から推量できるものであったと思われる。このような下で、見えるものをみようとしなかったとしたら、その要因のひとつに原子力事業に関わる制度的枠組みがあって、その社会的費用を過小に評価する誘因が働いていたことがあげられるかもしれない。

福島第一原発の事故は我々の想定以上のダメージを日本経済に及ぼしているように思われる。津波の襲来後に発生した一連の爆発は、「想定外」のつけがいかにかに大きなものであったかを印象付けることになった。事態収拾の直接的費用のみならず、周辺地域の避難、農作物・水産物への風評被害、あまつさえ海外に輸出される日本製品の安全性証明など、その範囲は環境とグローバル化に関わって、地球規模であることがわかってきている。しかもその費用は時間的にも継続するものと推定されている。原発の社会的費用の算定にあたって、甚大災害の確率がいかにかに微少であっても、引き起こされる被害額が全体として莫大なものであれば、長期間で費用をならしたとしても小さなものとはならない。「想定外」の衝撃がいかにかに大きいものであるか認識しなければなら

ないであろう。

東日本の復興には、各段階で「知恵」を結集する必要があるようである。復興の担い手は直接被災された地域のひとびとである。現地の復興事業を成功裡に進めるためには、現場の「知恵」が何よりも必要であり、そのためには人、資材、資金において継続的なバックアップが必要となる。被災地域を継続的に支援し、調整する県ないし地方という中間領域では、具体的な資源配分を考え、ときには既存の市町村の枠組みを超えた事業を進めるような「知恵」が必要となる。それら「知恵」を国に伝えることも重要な役割である。国レベルではそれら「知恵」を受けて、新たな制度作りを行い、必要な資金を調達するという大きな役目がある。復興事業の方向性を示して、それが日本経済にどう寄与するか、将来像を内外に提示しなければならない。

このようなプロセスの中には当然復興のための財政負担と再建の道のりも含まれる。財政に対する海外の（市場という第三者）評価は、予想以上に厳しいことを認識する必要がある。幸い、負担が避けられないことは、国民の間に心積もりがあるようにおもわれるが、それをどう具体化するかは「政治」の大きな役割である。震災後の日本の姿を決めていく上で、現在ほど「政治」の「知恵」が求められているときにはないと思われる。

さて、当研究所では年2回定例の講演会が開かれ、講演者には改めて論文として執筆して年報に掲載していただいている。昨年度は結果としてみると、日本の内外をとりまく経済システムの再構築といった文脈のもとで講演をお願いすることになった。昨年度前半では、市場システムの再構築に関連させて、内田聡氏にはアメリカ金融システムの重層構造についてご講演いただき、鶴光太郎氏には日本の労働市場と雇用システム改革についてご講演いただいた。後半では、日本をとりまく国際的経済関係の変化に関連させて、渡邊頼純氏に GAT・WTO と EPA をめぐる問題と課題についてご講演いただき、山上秀文氏には国際プロジェクトファイナンスについてご講演いただいた。それぞれ大変興味深いお話を聞かせていただき、フロアからの質問・応答を通じ、各テーマに関わる貴重な所見にふれる機会を得ることができた。またお忙しい中、論文として執筆していただき本年報に掲載することができた。改めて感謝申し上げます。

また、昨年度は成城大学創立 60 周年ということで、幾つかの特別講演会が

催された。とくに成城大学と当研究所との共催の形で、昨年11月23日に福井俊彦氏(前日銀総裁・キャノングローバル戦略研究所理事)をお招きして、おもに本学学生を対象にしてご講演いただく機会をえた。学生が本会場に溢れ、別会場を用意しなければならないほど盛況であった。お忙しい中、ご講演を快諾してくださった福井氏には改めて感謝申し上げたい。

震災の影響を受け、成城大学の開講は一ヶ月遅れたが、本経済研究所は現行のプロジェクトの完成年度とあって、23年度中にその事業を完遂させる予定である。そのためには所員を含め関係各位のご支援とご協力が欠かせない。重々お願い申し上げる次第である。

2011年5月17日

成城大学経済研究所長

明 石 茂 生

目 次

巻頭の辞	明石茂生.....	1
研究報告		
労働市場制度・雇用システム改革	鶴光太郎.....	7
労働市場二極化問題を中心に		
アメリカの金融システム	内田聡.....	25
～ウォールストリートとメインストリート～		
経済開発に果たす 国際プロジェクトファイナンスの役割	山上秀文.....	47
忍び寄る「新保護主義」と国際通商体制	渡邊頼純.....	63
- WTO , FTA/EPA , そして TPP の役割 -		
60周年記念特別講演		
「厳しい生存競争に立ち向かう」	福井俊彦.....	119
研究所だより		125
前号目次・編集後記		131
「経済研究所年報」刊行一覧.....		132

研究所だより

会議

運営委員会

平成22年度

- 第1回 平成22年5月13日(木)
- 第2回 平成22年10月28日(木)
- 第3回 平成23年2月22日(火)

所員会議

平成22年度

- 第1回 平成22年4月20日(火)
- 第2回 平成22年10月19日(火)
- 第3回 平成23年2月20日(日)
- 第4回 平成23年2月22日(火)

研究報告会

第69回

日時 平成22年5月29日(土)

<第1部>

講演者 内田聡氏(茨城大学人文学部教授)

演題 「アメリカの金融システム～ウォールストリートとメインストリート」
(本号に掲載)

<第2部>

講演者 鶴光太郎氏(独立行政法人 経済産業研究所上席研究員)

演題 「労働市場制度・雇用システム改革：日本の働き方をいかに変えるか」
(本号に『労働市場制度・雇用システム改革 労働市場二極化問題を中心

に』として掲載)

第70回

日時 平成22年12月11日(土)

<第1部>

講演者 渡邊頼純氏(慶應義塾大学総合政策学部教授)

演題 「GATT・WTOそしてEPA」

(本号に『忍び寄る「新保護主義」と国際通商体制 WTO, FTA/EPA, そして TPP の役割』として掲載)

<第2部>

講演者 山上秀文氏(近畿大学経済学部教授)

演題 「経済開発に果たす国際プロジェクトファイナンスの役割」
(本号に掲載)

特別講演会(本学学生対象)

成城大学開学60周年記念

共催成城大学経済研究所

日時 平成22年11月23日(火)

講演者 福井俊彦氏(前日本銀行総裁 現 キヤノングローバル戦略研究所理事)

演題 「厳しい生存競争に立ち向かう」
(本号に掲載 文責 内田真人)

ミニ・シンポジウム

第1回

日時 平成22年5月18日（火）
 発表者 角田俊男氏（武蔵大学人文学部教授）
 題目 「ピョートルの改革と啓蒙の歴史学 法・絶対君主政・自治都市」

学部地域研究学科教授，
 経済・地域研究所研究員）

題目 「1888年の日本との協定におけるメキシコ（英語）

発表者 アントニオ・マッキントッシュ・ラミーレス氏（グアダハラ大学経済経営学部人材開発学科教授，高等教育の質およびイノベーション研究所研究員）

第2回

日時 平成22年7月13日（火）
 発表者 庄司匡宏氏（本学経済学部専任講師）
 題目 「マクロショックのセーフティネット 自然災害の例」

題目 「APECの枠組みにおけるメキシコの協力の現状」（西語：通訳）

(2)発表者 サルバドール・カリージョ・レガラード氏（グアダハラ大学経済経営学部地域研究学科教授，経済・地域研究所所長）

第3回

日時 平成22年11月16日（火）
 発表者 居城弘氏（静岡大学名誉教授）
 題目 「世界金融危機とドイツの金融システム」

題目 「経済連携協定における日本・メキシコの経済関係」（西語：通訳）

通訳：岡部拓氏（グアダハラ大学経済経営学部地域研究学科教授，経済・地域研究所研究員，本学法学研究科博士課程後期修了）

第4回

日時 平成22年12月20日（月）
 発表者 椿建也氏（中京大学経済学部教授）
 題目 「19世紀半ばから第二次世界大戦までのイギリスにおける住宅改革運動」

日墨学術交流ミニ・シンポジウム

日時 平成22年10月19日（火）
 (1)発表者 シルビア・ノベロ・イ・ウルダニヴィア氏（グアダハラ大学経済経営

刊行物

長期プロジェクト報告として以下の書物を刊行した。

数阪孝志著（神奈川大学経済学部教授）

「地銀決算にみる地域金融の問題点」

(経済研究所研究報告 53)

「Some Issues of the Medium-and Small-Sized Enterprises in Mexico」

(経済研究所研究報告 54)

Carlos Fong Reynoso

(Universidad de Guadalajara
Centro Universitario de
Ciencias Económico-
Administrativas Departamento
de Estudios Regionales-Ineser
Profesor Investigador)

Taku Okabe

(Universidad de Guadalajara
Centro Universitario de
Ciencias Económico-
Administrativas Departamento
de Estudios Regionales-Ineser
Profesor Investigador Asociado
“B”)

Akio Fukushima

(Researcher The Institute for
Economic Studies Seijo Uni-
versity)

Tomohiro Kakihara

(Researcher The Institute for
Economic Studies Seijo Uni-
versity)

角田俊男著 (武蔵大学人文学部教

授)

「都市共和国の伝統を継受する
専制帝国 啓蒙の歴史叙述とピ
ョートルの改革 」

(経済研究所研究報告 55)

〔組 織〕					(平成23年4月1日現在)
所 長	明 石 茂 生	大 津 武 武			経 済 学 部 教 授 経 済 学 部 教 授
主 事					
運 営 委 員	明 石 茂 生	大 津 本 義 武	杉 野 英 裕 二	今 野 裕 之	所 長 主 事 経 済 学 部 長 文 芸 学 部 長 法 学 部 長 社会イノベーション学部長 所 員 所 員
	篠 原 藤 平	佐 藤 文	夫 裕		
所 員 (50音順)	相 明 浅 伊 岩 上 上 内 大 大 小 佐 篠 庄 新 杉 立 塚 手 花 林 平 福 牧 村 森 山	原 石 井 地 知 崎 杉 田 田 限 津 森 平 藤 原 司 山 本 川 原 塚 井 田 井 光 野 田 川 重	茂 良 寛 尚 富 晋 真 弘 文 匡 一 義 英 公 清 伸 康 圭 裕 俊 芳	章 生 夫 博 人 之 一 人 宏 武 喜 裕 夫 伸 宏 雄 行 潔 敦 登 人 一 大 寛 子 志 孝 子	経 済 学 部 教 授 経 済 学 部 教 授 経 済 学 部 教 授 社会イノベーション学部教授 経 済 学 部 教 授 文 芸 学 部 教 授 経 済 学 部 准 教 授 社会イノベーション学部教授 社会イノベーション学部教授 経 済 学 部 教 授 経 済 学 部 教 授 経 済 学 部 教 授 法 学 部 教 授 社会イノベーション学部教授 経 済 学 部 専 任 講 師 法 学 部 教 授 経 済 学 部 教 授 経 済 学 部 教 授 社会イノベーション学部教授 経 済 学 部 教 授 文 芸 学 部 教 授 社会イノベーション学部教授 経 済 学 部 教 授 文 芸 学 部 教 授 社会イノベーション学部教授 法 学 部 教 授 経 済 学 部 准 教 授
客 員 所 員	花 枝 英 樹				中央大学総合政策学部教授

	吉川卓也	中村学園大学流通科学部准教授
	角田俊男	武蔵大学人文学部教授
	都留信行	産業能率大学経営学部専任講師
	原田泰	(株)大和総研顧問
研究員	福島章雄	本学大学院経済学研究科博士課程後期修了
	小松啓一郎	ジェトロ・ロンドン・センター上級研究員
	佐々木覚亮	東北大学大学院経済学研究科博士課程後期修了
	峯岸信哉	本学大学院経済学研究科博士課程後期修了
	柿原智弘	本学大学院経済学研究科博士課程後期修了
事務	西畑利恵子	大学事務局総務課
	川井田淳	大学事務局総務課

前 号 目 次

研究報告

- 日本国の原則 自由, 民主主義,
経済発展, 戦争, 平和について考える原 田 泰..... 5
- マクロ・バジェットिंगと増税なき財政再建井 手 英 策..... 35
高橋財政の歴史的教訓
- 21世紀は陸と海のたたかい水 野 和 夫..... 55
～ アメリカ金融帝国の終焉と資本主義の誕生～
- 世界恐慌と経済政策
- 『開放小国』日本の経験と現代 -鎮 目 雅 人..... 73

文献解説

- カルロス ,F. R. およびセレスティーノ ,R. E 共編
『メキシコにおける中小企業：現状および戦略的挑戦』.....中 川 和 彦..... 93

編集後記

成城大学経済研究所年報第24号が刊行のはこびとなった。当研究所では昨年度3回の講演会と5回のミニ・シンポジウムを開催した。5月の講演会では、茨城大学の内田聡先生が「アメリカの金融システム」、経済産業研究所の鶴光太郎氏が「労働市場制度・雇用システム改革」と題して講演され、2008年秋の金融危機が米国金融市場および日本の労働市場に与えた影響について論じられた。11月には大学60周年記念の特別講演会(大学との共催)を開催し、日本銀行前総裁の福井俊彦氏に「厳しい生存競争に立ち向かう」と題し講演していただき、500名余りの学生・教員が参加し活発な質疑応答が交わされ盛況であった。さらに、メキシコ・グアダハラ大学からシルビア・ノベロ先生、アントニオ・マッキントッシュ先生、サルバドル・カリージョ先生、岡部拓先生を招いて9月に開催された第2回日墨学術研究交流特別ミニ・シンポジウム、および12月の「GATT・WTOそしてEPA」と題した慶應義塾大学の渡邊頼純先生の講演は、昨今注目されている経済連携協定に関する興味深い論点を多く含み、示唆に富んだ内容であった。また、近畿大学の山上秀文先生には経済開発の効率と公正の観点から「経済開発に果す国際プロジェクトファイナンスの役割」について興味深い分析を紹介していただいた。本号はこうした活動の記録である。お忙しい中、ご協力いただいた学内外の諸先生方に厚くお礼を申し上げたい。

本年度は「都市：福祉と経済」、「イノベーション・システムとガバナンス構造」、「環太平洋における中小企業金融ならびに政府支援」というテーマで研究プロジェクトを進めるほか、グアダハラ大学との交流も所員派遣を通じてさらに発展させる予定である。それぞれのプロジェクトで優れた研究成果を挙げ、研究所の活動をより活性化させていくため、所員を含め関係者の方々の一層のご協力をお願いしたい。

「経済研究所年報」刊行一覧

号数	執筆者	タイトル	発行年月
1	堀家文吉郎 中村 英雄 村本 孜 高垣文庫貴重書目録 追加	ソートンの周辺 ジョン・ローの「墓碑銘」といわれるものについて 高垣経済学的一端 追加 1	1988.3
2	堀家文吉郎 麻島 昭一 片木 進 浅井 良夫	貨幣数量説とデビット・ヒューム 日本の金融制度再編 分業主義のゆくえ 決済ネットワーク発展の動向とリスク 占領期の金融制度改革と独占禁止政策	1989.3
3	津田 内匠 長谷川輝夫 井田 進也 宮崎 洋	フランス革命と産業主義 18世紀フランスにおける民衆と活字本 憲法か革命か 明治前期日本人の見たフランス革命 18世紀のフランスにおける旅について	1990.4
4	島村 高嘉 清水 啓典 金井 雄一 伊東 政吉 座談会	中央銀行の政策思想 情報化社会と日本の金融制度 イギリスにおける金融政策の形成と展開 アメリカにおける金融制度改革 金融政策との関連を中心として 高垣寅次郎博士を偲ぶ	1991.4
5	岩武 照彦 松田 博 仁保 義男 シンポジウム インタビュー	『近代中国通貨統一史 十五年戦争における通貨闘争』 について 京都大学経済学部所蔵貴重書 その整理の一こま 防衛支出の最適水準についての一考察（セミナー報告） 金融制度改革 （原司郎・楠本博・高木仁・西條正弘・村本孜） 『世界各国の金融制度』の思い出（大月 高）	1992.4
6	江口 英一 伊藤 正直 大田 弘子 両角 和夫 釜江 廣志	金融政策の中立性と中央銀行の独立性 中央銀行の役割と在り方 フロート制移行期のわが国為替政策をめぐって 保険制度の改革について 保険審議会答申をめぐって 現代農業金融問題と発生の背景 日本の国債市場と金利の期間構造	1993.4

号数	執筆者	タイトル	発行年月
6		長期プロジェクト研究報告 世界貿易の進展と構造変化：中間報告（明石茂生） わが国金融・資本市場の制度改革：中間報告（花枝英樹） 協同組織金融機関の制度改革の方向 東京都の地域信用組合の規模の経済性（村本 孜）	1993.4
		ミニ・シンポジウム TSLの金融市場への影響に関する理論分析（北川 浩） 政策金融と中小企業の設備投資（三井 清） 情報の非対称性と資本市場の理論（展望）（久保俊郎）	
		高垣文庫貴重書目録 追加 2	
7	藪下 史郎 橋本 一夫 石野 典 立脇 和夫 原田 泰	日本の銀行制度の安全性：歴史的展望 『信用金庫40年史』をめくって 協同組織金融機関の法制化にみる社会政策的側面 金融システムの安定性 1980年代後半以降の日本の金融経済との関連で 明治政府と英国東洋銀行 付「国立銀行条例」をめぐる疑問点 バブルと金融政策 マネーサプライは外生である	1994.4
		シンポジウム 保険の制度改革 （花輪俊哉・前川 寛・刀禰俊雄・村本 孜）	
	書 評	峰本暁子著『国際金融システムの変革 1797～1988』 近代文芸社 1993年（立脇和夫）	
8	花輪 俊哉 高木 仁 福光 寛 刈屋 武昭 村本 孜 小平 裕	銀行の将来 アメリカ銀行業は衰退産業か？ ナローバンク論とコアバンク論 オプション理論の考え方と応用可能性 金融デリバティブと地域金融機関 わが国の公的年金制度の動学的応用一般均衡分析	1995.4
		ミニ・シンポジウム 金融派生商品の現状（北島英夫） デリバティブの位相（阿部重夫） 最近のデリバティブの動向について（中島敬雄） 金融デリバティブについて 金利スワップの プライシング・ヘッジを中心に（高橋豊治）	
		金融学会1994年春季大会記事	
9	黒川 和美	行政改革のシナリオと地方分権	1996.4

号数	執筆者	タイトル	発行年月
9	伊藤 修	メインバンク制および日本型金融システムの発展と展望	1996.4
	森田 哲彌	外貨換算と原価主義会計	
	米澤 康博	派生取引の機能と現物市場へ与える効果	
	小谷 融	外貨建取引等会計処理基準の改訂について	
	高橋 一	金利の期間構造決定モデル（ ）	
	石川 欽也	『金融仲介機能の新たな展開への対応』（1995年5月）について デリバティブ取引への対応	
	浅井 良夫	追悼の辞 中村先生の思い出	
10	大塚 宗春	金融機関のトレーディング勘定への時価評価の導入について	1997.4
	大西 又裕	企業年金会計の検討課題と方向性について	
	靄見 誠良	アジアの金融制度改革 マレーシアとインド	
	那須 正彦	実務家ケインズとその経済学 中公新書版『実務家ケインズ』に即して	
	小平 裕	企業の組織と非効率性	
11	岡田 清	取引費用経済学の系譜	1998.4
	神田 秀樹	セキュリティゼーションの現状と課題	
	篠原三代平	東アジア経済のダイナミズムを考える	
	高野 義樹	住宅金融システムと債権の流動化	
	小山 明宏	ドイツ証券市場の問題と展望	
	シンポジウム	日本経済の構造変化と金融システム改革 問題提起 (寺西重郎) 金融システムの国際比較と日本版 ビッグ・バン (黒田晁生) 証券市場からみた金融ビッグ・バン (米澤康博) 金融技術革新の潮流 リテール金融との関連で (村本 孜) 情報化と金融システム改革 (池尾和人) 討論	
12	石 弘光	二元的所得税論について 利子・譲渡益をいかに課税すべきか	1999.4
	井堀 利宏	財政構造改革のゆくえ	
	林 健久	地方財政と経済政策・景気政策	
	吹春 俊隆	Newton 法による一般均衡解の計算	
	花枝 英樹	資産証券化の経済分析	

号数	執筆者	タイトル	発行年月
	吉川 卓也	財務データからみたわが国企業の資産調達の特徴 および企業規模別借入金利率の計測	
13	田中 素香	EU 通貨統合と国民経済 グローバル化への対応を中心に	2000 . 4
	内田 真人	欧州通貨統合と金融政策 統合後 1 年の課題と展望を中心に	
	田中 俊郎	EU 統合の現状と展望 拡大と深化の視点から	
	西沢 保	救貧法から福祉国家へ 世紀転換期の貧困・失業問題と経済学者・官僚	
	秋元 英一	アーヴィング・フィッシャーとニューディール	
	明石 茂生	ケインズ『一般理論』再読 失いし世界	
14	小川 英治	通貨バスケット制導入の効果と障害	2001 . 4
	原田 泰	統合は平和と繁栄をもたらすか 経済統合とアジア	
	根本 忠宣	欧州における金融システムの多様性と統合の影響	
	原 洋之介	世界史のなかのアジア経済 グローバリズムと地域性の経済学	
	斎藤 純一	社会国家と統治の変容	
15	後藤 晃	日本のナショナル・イノベーション・システムと その改革	2002 . 4
	島野 卓爾	欧州中央銀行 (ECB) のインフレーション・ターゲティング	
	長谷川公敏	日本経済はなぜ回復しないのか	
	宮川 公男	挑戦を受ける 21 世紀の資本主義文明	
	高月 昭年	日米銀行法制の違いと法律の沈黙	
16	首藤 惠	金融危機後のアジア資本市場の再構築	2003 . 4
	堀内 昭義	第二次大戦後の金融システムの機能を評価する 銀行経営ガバナンスの視点	
	楠本くに代	「金融商品の販売等に関する法律」(「金融商品販売法」) 施行後の金融消費者保護の実態と取り組むべき緊急 の課題 英国「2000 金融サービス・市場法」と法施 行後の FSA の取り組みを参考に	
	田尻 嗣夫	郵便預金・簡易生命保険の資金運用と欧米運用機関の教訓	
	村本 孜	グローバル化と効率・公平 展望と金融排除	

号数	執筆者	タイトル	発行年月
17	藤田 誠一	グローバル化とユーロ登場の意味	2004.4
	浅沼 信爾	アジアの経済発展とグローバル化	
	斎藤 聖美	ベンチャーで日本を活性化する	
	平尾 光司	アメリカにおけるベンチャーキャピタルの発展過程	
	江夏 由樹	中国東北地域の土地をめぐる中国と日本	
18	小野 有人	アジア域内における「最後の貸し手」の意義と課題 国際金融機関による政策競争の観点から	2005.4
	石山 嘉英	国際資本移動の増大と為替レート制度の選択	
	駒村 康平	21世紀型の社会保障制度を求めて 2025年を視野に入れた改革	
	石 弘光 佐藤 宏	少子・高齢社会における税・社会保障制度負担のあり方 現代中国における国家と農民 税制改革と所得分配	
19	日向野幹也	小口金融における実店舗と「動線」の役割 日米英独の経験	2006.4
	岩田 健治	EU（欧州連合）の新しい金融サービス政策	
	矢野 誠	M&A 市場とその質	
	高橋 伸子	金融経済教育の現状と課題 金融消費者，個人投資家は育つか	
	瀧澤 弘和	比較制度分析：枠組みと最近の展開	
	相原 章	コンピテンシーに基づく HRM の動向	
20	和田 一夫	年産200万台を超えるT型車をフォード社はどのよ うに達成したか？ フォード社の生産システム再検討	2007.4
	栗原 裕	量的緩和策の評価と課題	
	十川 廣國	企業と市場・社会 CSR の意義を考える	
	池本 正純	企業家論の視点とコーポレートガバナンス	
	堀内 圭子	浮世絵を生かしたまちづくり 小布施町の北斎と墨田区の北斎	
	経済研究所創立20周年記念		
21	伊丹 敬之	世界の中の日本，歴史の中の日本	2008.4
	岡田 清	わが国における金融経済学の発展 高垣寅次郎先生の事績	
	Ichiro Uesugi	Effectiveness of Credit Guarantees in	
	Koji Sakai and Guy M. Yamashiro	the Japanese Loan Market	

号数	執筆者	タイトル	発行年月
	大森 弘喜 シンポジウム	「都市空間論」の射程 イノベーション・システムの進化とそのガバナンス 趣旨説明 (伊地知寛博) 知的財産権制度の展開とイノベーション (小田切宏之) イノベーションの質的变化と新たな ガバナンスシステムの模索 (元橋 一之) アジアにおけるグローバル・イノベーション・ ガバナンスの構築にむけて (角南 篤) 討論	
22	寺西 重郎 鹿野 嘉昭 吉田 悦章 内田 真人 南里光一郎 平田 英明	明治大正の投資家社会 2003年以降における中小企業の経営財務面での 動きをめぐって CRD の分析結果から イスラム金融 国際金融界の新潮流 グローバルにおける住宅金融の急展開と混乱 スコアリング貸出の課題 新銀行東京を例に	2010 . 4
23	原田 泰 井手 英策 水野 和夫 鎮目 雅人 文献解説 中川 和彦	日本国の原則 自由, 民主主義, 経済発展, 戦争, 平和について考える マクロ・バジェットिंगと増税なき財政再建 高橋財政の歴史的教訓 21世紀は陸と海のたたかい ~ アメリカ金融帝国の終焉と資本主義の誕生 ~ 世界恐慌と経済政策 『開放小国』日本の経験と現代 カルロス, F. R. およびセレスティーノ, R. E 共編 メキシコにおける中小企業: 現状および戦略的挑戦	

「研究報告」(グリーン・ペーパー) 刊行一覧

1	花枝 英樹	自己株式取得と企業財務	1994 . 1
2	明石 茂生	世界貿易の進展と構造変化: 1861 1991	1994 . 1
3	村本 孜	協同組織金融機関の健全経営の一考察 労働金庫の自己資本の充実	1994 . 6
4	村本 孜	生命保険会社の競争力について	1994 . 6

号数	執筆者	タイトル	発行年月
		銀行業務兼営を考慮した規模・範囲の経済性	
5	吉川 卓也 小平 裕	生命保険需要の特性分析 簡易保険と民間生命保険	1995.3
6	明石 茂生	国際収支と構造変化：1881-1991	1995.3
7	花枝 英樹	なぜ企業は財務リスク管理を行うのか	1995.3
8	村本 孜	協同組織金融機関の合併の一考察 労働金庫の規模の経済性の計測	1996.3
9	山口 一臣	アメリカ食品企業の環境戦略 マクドナルド社、スターキスト社 (ハインツ子会社)の事例を中心として	1996.6
10	小平 裕	金融機関のX非効率性の計測	1997.2
11	浅井 良夫	経済安定本部調査課と大来佐武郎	1997.3
12	海保 英孝	フィージビリティ・スタディの諸問題	1997.3
13	手塚 公登	企業の資本構成と取引コストの理論	1997.3
14	山田 稔	建設業労働者の賃金・賞与・退職金・年金 労務管理論的考察	1997.11
15	池田 和宏	J. S. ミル国防論に関する一考察 1860年におけるアイルランド植民地との関連で	1998.1
16	立川 潔	J. S. ミルのリベラリズム批判 社会再生における権威の必要性の認識	1998.3
17	海保 英孝	業績の悪化と回復の作用機序について その論点とインプリケーション	1998.3
18	村本 孜	家計貯蓄率の将来推計	1998.3
19	岩崎 尚人 神田 良	企業間ネットワーク構築による戦略的革新の実現 中小トラック企業のケースから	1998.3
20	吉川 卓也	日本の個人金融資産需要の特性	1998.3
21	福光 寛	資産担保証券の財務的意義について	1999.3
22	角田 俊男	ヒュームの情念論と判断力 『人間本性論』をとおして	1999.3
23	花枝 英樹 吉川 卓也	資本構成問題の再検討	1999.6
24	村本 孜	金融システムの国際比較分析 市場統合・通貨統合をもたらすもの	2000.3
25	浅井 良夫	「新長期経済計画」と高度成長初期の経済・産業政策	2000.3
26	篠原 光伸	デリバティブとヘッジの会計 国際会計基準設定までの推移と今後	2000.3
27	塚原 英敦	Empirical Copulas and Some Applications	2000.12
28	山重 芳子	An 'Austrian' Model of Environment and Trade	2001.1
29	手塚 公登 井上 正	企業特殊的人的投資とアウトプットの最大化	2001.3

号数	執筆者	タイトル	発行年月
30	立川 潔	若き S. T. コウルリッジの急進主義思想（上） 1795年プリストル道徳政治講演の啓示宗教的基礎	2001. 3
31	福光 寛	公社債投資信託の元本割れをめぐる	2002. 3
32	角田 俊男	周縁にとっての主権と商業 ブリテン，ヨーロッパの 公共空間を開くヒューム哲学	2002. 3
33	福島 章雄	経済・市場統合の展開 NAFTA の成立とメキシコの通貨危機	2002. 3
34	小平 裕	Mathematica によるミクロ経済学	2002. 3
35	Gordon de Brouwer	The IMF and East Asia : A Changing Regional Financial Architecture	2003. 3
36	手塚 公登 浅野 義	年金民営化と「スイッチング」問題	2003. 3
37	福島 章雄 峯岸 信哉 村本 孜	経済統合の類型と金融システム・金融政策	2003. 3
38	明石 茂生	「前近代」世界システム：形成と変容	2004. 3
39	山村 延郎 松田 岳	米独の預金保護制度の比較分析 破綻処理と規律付けを中心に	2004. 3
40	村本 孜	アメリカの地域金融促進政策 CRA の問題	2004. 3
41	小平 裕 佐々木覚亮	わが国の社会会計行列の作成	2004. 5
42	浅井 良夫	IMF 8 条国移行と貿易・為替自由化（上） IMF と日本：1952～64年	2005. 3
43	大森 弘喜	近代フランスにおける労使関係とディリジスム	2006. 3
44	上田 晋一	二酸化炭素排出枠の公正価値会計： IFRIC 第3号の検討	2006. 3
45	岩崎 尚人 海保 英孝 相原 章 福田 和久 都留 信行	中堅・中小企業の ステイクホルダー・マネジメントの研究	2006. 5
46	浅井 良夫	IMF 8 条国移行と貿易・為替自由化（下） IMF と日本1952～64年	2007. 3
47	福光 寛	証券化の功罪：サブプライム問題を振り返る	2007. 10
48	沼尻 晃伸	戦間期・戦時期日本における方面委員論に関する 一考察 都市社会事業と「公」・「公共」	2008. 3
49	西久保浩二	福利厚生制度の現状と課題	2008. 3
50	小藤 康夫	大学経営の構造と機能	2009. 2
51	小平 裕	経営者報酬と企業の行動目的	2009. 3
52	大岡 聡	昭和戦前・戦時期の百貨店と消費社会	2009. 4

号数	執筆者	タイトル	発行年月
53	数阪 孝志	地銀決算にみる地域金融の問題点	2010.4
54	Carlos Fong Reynoso	Some Issues of the Medium-and Small-Sized Enterprises in Mexico	2010.6
55	Taku Okabe Akio Fukushima and Tomohiro Kakihara 角田 俊男	都市共和国の伝統を継受する専制帝国 啓蒙の歴史叙述とピョートルの改革	2010.12

「モノグラフ」刊行一覧

1	村本 孜	制度改革とリテール金融 (平成6年 中小企業研究奨励賞を受賞) (平成9年 生活経済学会賞を受賞)	1994.3
2	白鳥庄之助 村本 孜 花枝 英樹 明石 茂生 (共著)	金融デリバティブの研究 スワップを中心に	1996.3
3	村本 孜 (編著)	グローバリゼーションと地域経済統合	2004.3

* バックナンバーをご希望の方は、当研究所までご連絡下さい。

問い合わせ先：成城大学経済研究所

〒157 8511 東京都世田谷区成城 6 1 20

TEL : 03 3482 9185 ,9187

FAX : 03 3482 7851

e-mail : keiken@seiyo.ac.jp

成城大学 経済研究所年報 第24号

平成23年4月10日 印刷

平成23年4月20日 発行

非売品

発行責任者 明 石 茂 生

発行 成城大学経済研究所

〒157 8511 東京都世田谷区成城 6 1 20

電話 03(3482)9187 番

印刷所 白陽舎印刷工業株式会社
